

# オリイヒタキの渡り行動および個体群密度

武建勇

山西省龍泉溝国家級自然保護区

訳 福井和二

**摘要** 1992年～1994年5～6月、山西省龍泉溝国家級自然保護区において、オリイヒタキの渡り動態および個体群密度の研究を行なった。この鳥は当自然保護区において夏鳥として5月上旬に渡来し、9月下旬には去る。個体群密度は繁殖前の毎km遭遇数  $1.96 \pm 0.20$  羽、繁殖後は  $2.08 \pm 0.22$  羽。繁殖前との比は6.12%の増加であった。灌木疎林帯での行動最高(42.58%)、草原と疎林帯では最低(4.22%)であった。

オリイヒタキ (*Hodgsonius phoebicuroides*) の繁殖生態と雛の成長発育についてはすでに報告があるが、渡りの動態および個体群密度の研究はまだ見られない。1992～1994年にわたって、5～9月の期間われわれは山西省龍泉溝国家級自然保護区において、オリイヒタキの渡りの動態と個体群密度の観察、研究を行なったので報告する。

## 1. 対象地域の概況と方法

龍泉溝国家級自然保護区は、山西省呂梁山脈の中ほど、交城と方山両県の境界、東経  $111^{\circ} 22'$  ～  $111^{\circ} 33'$  北緯  $37^{\circ} 45'$  ～  $37^{\circ} 55'$  にあり、主峰孝文山は海拔2,831m、保護区の総面積は10,443hm<sup>2</sup>である。

観察方法；低山帯から高山帯まで4箇所の異なる森林地帯を選び、オリイヒタキの個体群密度の調査を行なった。また、郝家溝に定点を設け春秋の渡りの動態観察を行なった。

1.1. 疎林灌木帯 場所、八水溝、海拔1,650～1,950m。チョウセンヤマナラシ (*Populus davidiana*)、油松<sup>1</sup> (*Pinus tabulaeformis*)、シラカバ (*Betula platyphylla*) 等の高木層、沙棘<sup>2</sup> (*hippophae rhamnoides subspsinensis*) などの灌木が中層をなしている。地形は東西に溪谷が走り、美しい清流が山を縫い、涸れることがない。

1.2. 針葉、広葉混交林 場所、神尾溝、海拔1,950～2,250m。高木は華北カラマツ (*Larix principis-rupprechtii*)、トウヒ属 (*Picea* sp)、チョウセンヤマナラシ、シラカバなどが高層をなし、中層ではシモツケ属 (*Spiraea* spp)、沙棘、黄刺玫<sup>3</sup> (*Rosa xanthina*) などで構成されている。地形は溪谷が東北から南西に向かい、きれいな水が絶え間なく流れている。

1.3. 針葉混交林帯 場所、西塔溝、海拔2,250～2,550m。高木は華北カラマツ、トウヒ属などで高層を構成し、中層の灌木叢はスイカズラ属 (*Lonicera* sp)、ヤマハギ (*Lespedeza bisolor*)、沙棘、シモツケ属等である。谷は東西に向かって走る。

1.4. 疎林草原 場所、雲頂山から孝文山にいたる海拔2,550～2,831mの地域、疎林はトウヒ属、華北カラマツ等で構成され、中層灌木はわずかにキンロバイ (*Potentilla fruticosa*)、鬼見愁<sup>4</sup> (*Caragania jubata*)、沙棘などである。この地域の地勢は急峻で気候に恵まれず、植物は成長が悪く小さい。草本の優勢種はウマノアシダカ (*Ranunculus japonicus*)、藍花棘豆<sup>5</sup> (*Oxytropis coerulea*) はどである。

以上の各地域で繁殖前の5月と繁殖後の8月に各2回、7:00～10:00の間に距離は2km、2km/h、左右20mの範囲でロードセンサスを行ない、灌木の枝、高木の枝、地面、岩の上などのオリイヒタキの生息位置を記録し、また鳴き声も記録した。コース、調査者、調査時間などを

3年間、同一条件で調査し、繁殖前と後の生息密度を算定した。

## 2. 渡り時期の動態および生息地

オリイヒタキは山西省では夏鳥で、毎年の初認、終認、滞在日数を表1に示す。

表によるとオリイヒタキの本地区での初認は

5月6～10日、秋の終認は9月8～15日、本地区での滞在日数は236～239日で、その差は3日と安定している。過去の観察によると、春の初認個体は非常に見つけやすいが、いつ渡りが終わったのかについては定かではない。同様に、秋の渡りがいつから始まったのかについて知る

ことは容易ではない。春は雄が先に渡来する。オリイヒタキは5月上旬に、本地区の灌木疎林、針葉、広葉混交林など多様な環境に、先ず雄が渡来して単独に行動し、美しい声で囀る。その鳴き声は“du-du-du-dula-dula-du”と聞こえる。オリイヒタキの環境別生息数調査の結果を表2に示す。

表1 オリイヒタキの季節動態

年度	初認日	終認日	滞在日数
1992	5月8日	9月12日	128日
1993	5月6日	9月8日	126日
1994	5月10日	9月15日	129日

表2 オリイヒタキの環境別生息数

項目	確認数	%	行動圏%	
営 巢 地	灌木疎林	7	6.14	16.65
	谷斜面	3	2.63	
	針広混交林	4	3.51	
	針葉混交林	3	2.63	
	針葉落葉林	2	1.75	
採 食 地	針・広林地面	5	4.39	36.85
	灌木・草地	9	7.89	
	低木枝上	3	2.63	
	多種灌木間	12	10.53	
	水辺地面	5	4.39	
休 息 地	草地地面	8	7.02	21.92
	林縁大木低層	3	2.63	
	灌木梢	9	7.89	
ね ぐ ら	水辺草地	13	11.40	24.51
	巣近くの灌木	9	7.89	
	谷間棘の中	11	9.65	
	日向斜面灌木	8	7.02	
合計	114	100.00	100.00	

表2により、オリイヒタキの主な生息場所、営巣場所、採食場所、休息場所、ねぐらなどの環境を知ることができる。3年間の観察により、各生息地の行動割合は、営巣地で16.65%、採食地で36.85%、休息場所で21.9%、ねぐらで24.56%であった。

## 3. 個体群密度および垂直分布

3.1 個体群密度 オリイヒタキの個体群密度を、毎年繁殖前後に各調査区域で2回調査を行

行なった。(表3)

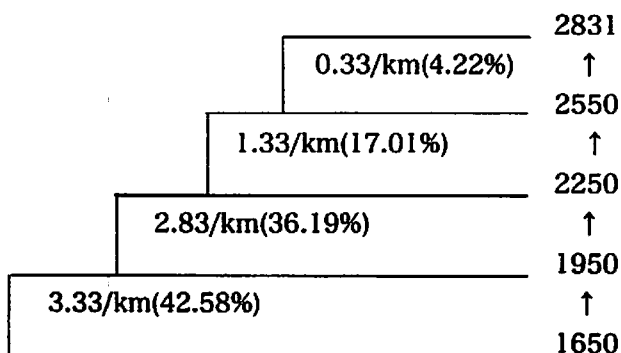
表3 オリイヒタキの繁殖前後における個体群密度の比較

年度	調査回数	溜木疎林	針広混交林	針葉混交林	疎林草地	平均値	繁殖前比繁殖後%
繁殖前 1992	8	3.5	3.0	1.5	1	2.25	
1993	8	4.0	3.5	1.5	0	2.25	
1994	8	2.5	2.0	1.0	0	1.38	
平均	8	3.33	2.83	1.33	0.33	1.96	
繁殖後 1992	8	3.0	2.0	1.0	0	1.50	-33.33%
1993	8	4.5	2.5	1.0	1.0	2.25	0
1994	8	4.5	4.0	1.5	0	2.25	66.66%
平均	8	4.00	2.83	1.17	0.33	2.08	6.12

オリイヒタキの繁殖前5月における個体群密度は  $1.96 \pm 0.20$  羽/km, 繁殖後8月における個体群密度は  $2.08 \pm 0.22$  羽/km と繁殖前と比較して6.12%増であった。

3.2 垂直分布 オリイヒタキの本調査区域の標高差による個体群密度の差を図1に示す通り、低山地域で高く、高山地域に至るほど低くなる。

図1 龍泉溝におけるオリイヒタキの垂直分布



3.3 出現数変動 オリイヒタキの繁殖前後の個体群密度の変動は、繁殖前3年の個体群密度(2.25羽, 2.25羽, 1.38羽)と繁殖後の個体群密度(1.50羽, 2.25羽, 2.50羽)と変動は大きくない。  $t = p < 0.05$  で、各年(1992~1994年)の個体群密度の変動差は顕著ではない。個体群密度は安定していると思われる。

訳注

\* 和名不明

\*1 油松;遼寧, 内蒙古, 河北, 山東, 河南, 山西, 陝西, 甘肅, 青海, 四川北部に分布。和名不明

\*2 沙棘;華北, 四川, 雲南, 西藏に分布。和名不明

\*3 黄刺玫;東北, 内蒙古, 山東, 河北, 山西, 陝西, 甘肅に分布。和名不明

\*4 鬼見愁;遼寧, 河北, 山西, 内蒙古, 四川, モンゴル, シベリアに分布。和名不明

\*5 藍花棘豆;河北, 山西, 内蒙古, モンゴル, シベリアに分布。和名不明